

26. 第一疏水建設工事用のレンガ製造工場跡地が陸軍の火薬製造所 予定地に！？

フェイスブック掲載日 2021/11/3

京都府の2006年10月1日付「総合資料館だより」NO.149に「琵琶湖疏水建設の周辺」という調査研究報告が掲載されており、「3. 煉瓦工場跡地の行方」の項で、「第一疏水工事の期間中、140万個の煉瓦を製造した疏水事務所直営の煉瓦工場敷地は、現在の京阪京津線御陵駅附近の約1万3500坪におよんでおり、その内、4000坪は府が買い上げたものでした。工事終了後（明治23年4月）、この敷地の処理が課題となりますが、当初有力だったのは、陸軍の火薬製造所にする案だったようです。」との記述に出会い、たいへんな驚きと、大きな興味を持ちました。

明治20年代前半、中国大陸への進出を背景に大陸に近い関西に火薬製造所の建設が計画され、陸軍は疏水煉瓦工場跡地をその予定地としていましたが、建設予算がつかず計画はご破算になりました。

この経過を記したものが「京都学・歴彩館」（旧総合資料館）所蔵の「親展来書」（明21-10）という簿冊に、明治24年8月の大阪砲兵工廠提理（工廠の業務の統括者）太田徳三郎から北垣府知事あての書面として綴られています。

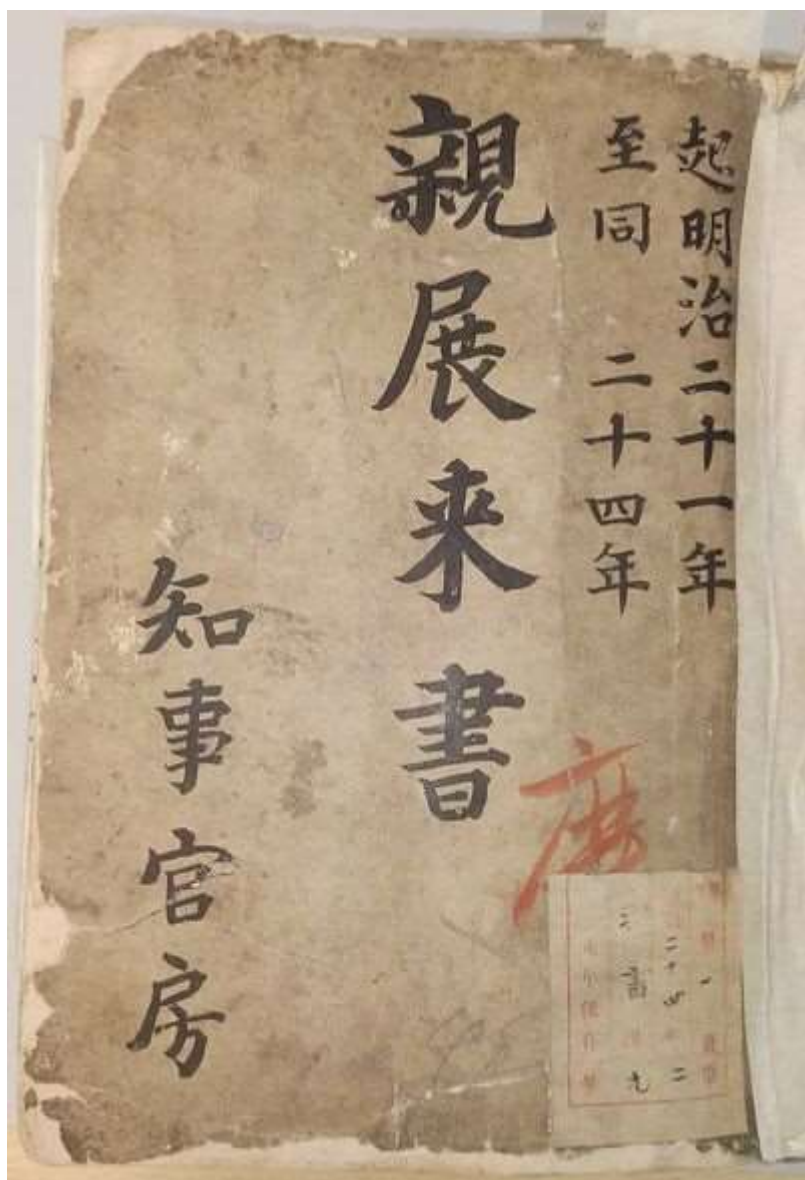
さっそく、同館に出向き当該書面を閲覧しました。担当の職員さんは、この綴りは重要文化財扱いのため、貸出しやコピーはできないが、写真は自由に撮ってよいとのことでした。



この書面には、「『蹴上御陵村ニ火薬製造所建築地』の調査にお手数をかけたが、明治 25 年度の帝国議事に設置議案を提出することはみあわせになった。」旨、書かれています。

陸軍の火薬製造所はその後、日清戦争開始後の明治 27 年 9 月 13 日に、黄檗火薬庫に隣接する宇治郡宇治村五ヶ庄に設置することが決定されたのです。

宇治に設置されるまでにはいろいろな経緯があったようですが、その経過は改めて報告します。



過瓶普府一既上在險片... 地... 油... 提... 申... 議... 右... 今... 也

大德... 四德三印

